ヌエック女性教育情報センター

あんな本・こんな本

2024 年 3 月 25 日発行　No.90

ボランティアによる新着図書・資料案内

この号では女性教育情報センターに 2023 年 8 月～2024 年 1 月に新しく受け入れた資料の中から、ボランティアが選んだ本を紹介します。新着の全資料は下記の文献情報データベースからご覧いただけます。
https://winet2.nwec.go.jp/bunken/cgi/newbook_cal/opac_newbook_cal.cgi

読んでみました

めくるめく数学。：女性数学者たちが語るうるわしき数学の物語

嶽村智子，大山口菜都美，酒井祐貴子著；明日香出版社　2023 年　[リスト No.35]

世界はこんなに数学にあふれているのか！　ワクワクしながら一気読みした。数式や図が手書きなのも楽しく親しみやすい。時々難解そうな数式も出てくるが、自分では計算しないことにすれば大丈夫。内容の一部を紹介しよう。

・他の種との競争に打ち勝って絶滅を免れた素数ゼミ（13 年、17 年など素数の年ごとに大発生するセミ）の生存戦略。

・クレカのセキュリティは 300 桁もの素数の素因数分解を援用した暗号を使っているので突破するのはほぼ不可能（つまり安全）。

・サッカーで、ゴールに近づく確率を高めるにはどのポジションの選手を強化すべきか、ランダムウォークと言う概念を使って計算する。

この本は 3 人の女性数学者によって書かれた。肩書に“女性”を付けるのは好きではないが、この本だけは大声で**女性**数学者が書いた！といいたい。理系に進む女性を増やそうと NWEC でも頑張っているが、素敵なロールモデルがいる。本書を読めば数学への興味が沸くこと請け合いである。　[YK]

10 代のうちに考えておきたいジェンダーの話　(岩波ジュニア新書 ；979)

堀内かおる著；岩波書店　2023 年　[リスト No.17]

私たちは日々の生活の中で生きづらいと思うことを解決しながら進んできた。男女平等ということばを当然のことと聞きながら成長し、フェミニズムの高揚を体験している私は、保育園設立運動に助けられ何とか仕事と家事・育児を両立させてきた。そして今や「イクメン」は当たり前という状況である。社会は男女共生に向かって大きく前進した。とはいっても中身はまだまだ整備不全であり、現状は課題山積である。

本書は、ジェンダーの問題を若い人たちが自分ごととして考えられるよう、日常生活に浸透している問題を具体例を挙げて示している。例えば色。「女の子はピンク、男の子は青」という思い込みがある。女の子が青が好きだというと「変よね」と周囲から疎まれる。無意識なだけにこのような言動がどれほど当事者を傷つけ、偏見を増幅させてしまうことか。

本書を読み、日常的な事象に対して敏感でいたいと改めて思った。少なくとも「本当にそうかな？」という視点を持たないと、誰かを傷つけてしまう事態にもなる。そして、孫を始め10代の人たちの日々の疑問に応えられるようにしたい。それができなくとも、一緒に考える姿勢を持ちたいと思う。　[JK]

フェミニズム　(別冊 NHK100 分 de 名著)

加藤陽子［ほか］著 ；NHK 出版　2023 年　　［リスト No.16］

本書は2023年１月にNHK Eテレで放映された「100分de名著：フェミニズム」を書籍化したものである。通常の「100分de名著」と違い、４人の論者が紹介する名著を司会者とともに討論するスペシャル版である。各論者の推し本は以下のとおり。

加藤陽子氏　　『伊藤野枝集』森まゆみ編；岩波書店
鴻巣友季子氏　『侍女の物語』『誓願』アトウッド著；早川書房
上間陽子氏　　『心的外傷と回復』ハーマン著；みすず書房
上野千鶴子氏　『男同士の絆』セジウィック著；名古屋大学出版会

加藤氏は、伊藤野枝が描く女性のあがきや苦しみ、「習俗打破！」の叫びを、今なお強固な女性差別の状況と重ね合わせて論じている。鴻巣氏が読み解く『侍女の物語』は女性隷従の世界を描くディストピア小説だ。女性は＜侍女（子を産む道具）＞、＜女中＞など4階級に分けられ名前も人権も奪われている。女性を分断支配することは男性優位維持の戦略であり、形は違えど現在も似たことは起こっているという。『心的外傷と回復』は未読だったが、上間氏の紹介と論者による討論を読み、性暴力からの回復に重要なことを多少なりとも理解することができた。同氏は十代で妊娠出産する女性を支援する実践家でもある。同書はまさしく「役に立つ理論」なのである。上野氏は言うまでもなく日本のフェミニズムを牽引してきた人である。『男同士の絆』で提起された「ホモソーシャル」という概念は、男性が公的社会を独占する構造を見事に暴き出し、私自身「目からウロコ」の思いをしたものだ。

ここで取り上げられた「性的虐待」「心的外傷」「ホモソーシャル」などの言葉は、名前を付けることで可視化され、女性の直面する諸問題への認識や運動につながっていった。

録画してあった番組を改めて視聴してみると、本書は番組の中で議論された問題に対する4人の論者の応答も書かれているので、放映時よりもずっと整理され、各論者の論点が響きあって、フェミニズムの現在地を明示してくれたように思う。　[YK]

家で死ぬということ ：ひとり暮らしの親を看取るまで

石川結貴著 ； 文藝春秋　2023年　　［リストNo. 31］

よくぞ、自身の親の在宅での介護・看取りを、制度の問題からリアルな現実、親との確執も含めた心情に至るまで、赤裸々に書いてくださったと思う。今、在宅介護に向き合っている方には、共感することや参考になることが数多くあるはずだ。

施設の介護職員として働く私は、家に帰りたいと願う利用者に接するたび、その実現の難しさを感じていた。家で自立できるよう支援するという目標があっても、安全優先で施設で介助せざるを得ない、その狭間で日々揺れているのが現状である。

著者の父親は病院や施設を嫌い、「家で死ぬ」という強い意志を持っていただけに、家族も覚悟し、３年にわたり在宅での生活を見守り、同居して介護し、看取りまで貫いた。その間、一度は認定された介護保険が打ち切られ、訪問診療クリニックがなかなか見つからず、終末期前後には想定外の事態にいろいろ直面し、迷いもあったという。在宅医療、在宅介護の限界も垣間見える。

また、高齢世代の貯蓄額・年金額の格差にも目を向けずにはいられない。とりわけ、遺族年金のない単身高齢女性は深刻な状況が多いようだ。著者の父を担当した訪問看護師が語ったのは、医療／介護用でない安物の手袋しか用意できず、新聞紙1枚もない家がある、という寒々とした現実だ。今後の改正で自己負担額が増えることになれば、介護保険の利用そのものを控えてしまい、家族に負担を強いる事態にはならないのだろうか。

親を看る側だった私たち世代も、自分自身の老後や死に際について、将来の介護保険のこと、終末期に起こること、利用できる施設や事業所のこと等、もっと関心を持って知っておくべきだと心した。　[TK]

2023年8月～2024年1月に女性教育情報センターが新たに受け入れた図書からボランティアが選んだ本です。

		書名・副題 / 著者・編著者名	出版社	出版年月	請求番号
	1	女の世界 ： 大正という時代 尾形明子著	藤原書店	2023.9	051/066
	2	心的外傷と回復 ジュディス・L・ハーマン著 ； 中井久夫，阿部大樹訳	みすず書房	2023.10	146.8/Sh69
	3	オーラル・ヒストリー ： 聞き書きの世界 折井美耶子，宮崎黎子，生方孝子編著	ドメス出版	2023.8	207/071
	4	女も戦争を担った ： 昭和の証言 川名紀美著	河出書房新社	2023.8	210.7/066
	5	カティンの森のヤニナ ： 独ソ戦の闇に消えた女性飛行士 小林文乃著	河出書房新社	2023.3	234.9/Ka85
	6	越えられなかった海峡 ： 女性飛行士・朴敬元の生涯 加納実紀代著	インパクト出版会	2023.6	289.2/Ko22
	7	カタリン・カリコ ： mRNAワクチンを生んだ科学者（ポプラ社ノンフィクション ； 44） 増田ユリヤ著	ポプラ社	2023.8	289.3/Ka83
	8	わたしにまかせて！ ： アポロ13号をすくった数学者キャサリン・ジョンソン ヘレーン・ベッカー文 ； ダウ・プミラク絵 ； さくまゆみ訳	子どもの未来社	2023.11	289.3/W47
	9	豊岡メソッド ： 人口減少を乗り越える本気の地域再生手法 大崎麻子，秋山基著	日経BP日本経済新聞出版	2023.11	318.6/To91
	10	ジェンダー視点で読み解く重要判例40 ジェンダー法学会編 ； 二宮周平，後藤弘子編集代表	日本加除出版	2023.11	321/J36
	11	フェミニスト経済学 ： 経済社会をジェンダーでとらえる = Introduction to feminist economics ： the Japanese feminist perspective 長田華子，金井郁，古沢希代子編著 ； 李素軒［ほか］著	有斐閣	2023.10	331/F18
	12	無意識のバイアスを克服する ： 個人・組織・社会を変えるアプローチ ジェシカ・ノーデル著 ； 高橋璃子訳	河出書房新社	2023.5	361.4/Mu22
	13	女性不況サバイバル（岩波新書 ； 新赤版 1981） 竹信三恵子著	岩波書店	2023.7	366/J76
	14	ビジネスケアラー ： 働きながら親の介護をする人たち（ディスカヴァー携書 ； 249） 酒井穣著	ディスカヴァー・トゥエンティワン	2023.7	366.7/B42
	15	エンタイトル ： 男性の無自覚な資格意識はいかにして女性を傷つけるか ケイト・マン著 ； 鈴木彩加，青木梓紗訳	人文書院	2023.4	367.2/E63
*	16	フェミニズム （別冊NHK100分de名著） 加藤陽子［ほか］著	NHK出版	2023.7	367.2/F18
*	17	10代のうちに考えておきたいジェンダーの話 （岩波ジュニア新書 ； 979） 堀内かおる著	岩波書店	2023.12	367.2/J88
	18	これからの時代を生き抜くためのジェンダー&セクシュアリティ論入門 三橋順子著	辰巳出版	2023.12	367.2/Ko79
	19	教室から編みだすフェミニズム ： フェミニスト・ペダゴジーの挑戦 虎岩朋加著	大月書店	2023.10	367.2/Ky5
	20	学ぶことは、とびこえること ： 自由のためのフェミニズム教育 （ちくま学芸文庫 ； ［フ50-1］） ベル・フックス著 ； 朴和美，堀田碧，吉原令子訳	筑摩書房	2023.5	367.2/Ma43
	21	ゼロからはじめる女性学 ： ジェンダーで読むライフワーク論 天童睦子著	世界思想社	2023.10	367.2/Z3

	22	母の壁 ： 子育てを追いつめる重荷の正体 前田正子，安藤道人著	岩波書店	2023.6	367.3/H14
	23	無自覚な夫のための妻の地雷ワード事典 岡野あつこ監修	日本文芸社	2023.8	367.3/Mu22
	24	ステップファミリーの子どもとしての私の物語 ： 親の離婚・再婚でできた「ギクシャク家族」が「ふんわり家族」になるまで きむらひとみ著	金剛出版	2023.10	367.3/Su83
	25	シン・男がつらいよ ： 右肩下がりの時代の男性受難（朝日新書 ； 916） 奥田祥子著	朝日新聞出版	2023.7	367.5/Sh65
	26	よかれと思ってやったのに ： 男たちの「失敗学」入門 （双葉文庫 ； き-37-01） 清田隆之著	双葉社	2023.9	367.5/Y74
	27	LGBTQ+の権利 （わたしたちの権利の物語） ルイーズ・スピルズベリー文 ； トビー・ニューサム絵 ； ひらのあさ訳	文研出版	2023.2	367.9/L11
	28	ウィッピング・ガール ： トランスの女性はなぜ叩かれるのか ジュリア・セラーノ著 ； 矢部文訳	サウザンブックス社	2023.5	367.98/U56
	29	声をあげて 五ノ井里奈著	小学館	2023.5	368.6/Ko22
	30	「助けて」と言える社会へ ： 性暴力と男女不平等社会 大沢真知子著	西日本出版社	2023.5	368.6/Ta93
*	31	家で死ぬということ ： ひとり暮らしの親を看取るまで 石川結貴著	文藝春秋	2023.8	369.2/I21
	32	フェミニスト男子の育て方 ： ジェンダー、同意、共感について伝えよう ボビー・ウェグナー著 ； 上田勢子訳	明石書店	2023.7	379.9/F18
	33	学ぶこと生きること ： 女性として考える （中公文庫 ； [さ-88-1]） 猿橋勝子著	中央公論新社	2023.7	404/Ma43
	34	女性が科学の扉を開くとき ： 偏見と差別に対峙した六〇年 ： NSF長官を務めた科学者が語る リタ・コルウェル，シャロン・バーチュ・マグレイン著 ； 古川奈々子訳	東京化学同人	2023.11	407/J76
*	35	めくるめく数学。 ： 女性数学者たちが語るうるわしき数学の物語 嶽村智子，大山口菜都美，酒井祐貴子著	明日香出版社	2023.9	410/Me29
	36	性差別の医学史 ： 医療はいかに女性たちを見捨ててきたか マリーケ・ビッグ著 ； 片桐恵理子訳	双葉社	2023.9	490.2/Se19
	37	ジェンダー目線の広告観察 小林美香著	現代書館	2023.9	674/J36
	38	シンデレラはどこへ行ったのか ： 少女小説と『ジェイン・エア』（岩波新書 ； 新赤版 1989） 廣野由美子著	岩波書店	2023.9	909/Sh62
	39	女だろ！ （江戸から見ると / 田中優子著 ； [3]） 田中優子著	青土社	2023.11	914.6/O66
	40	マーガレット・アトウッド『侍女の物語』を読む ： フェミニスト・ディストピアを越えて（水声文庫） 加藤めぐみ，中村麻美編 ； マーガレット・アトウッド［ほか］著 ； 西あゆみ訳	水声社	2023.12	930.2/Ma29

＊印の本は **読んでみました** に 感想文を掲載しています。

連絡先：〒355-0292 埼玉県比企郡嵐山町菅谷728
国立女性教育会館（NWEC）
ボランティアルーム内「あんな本こんな本」担当